実践報告

大学生トレーナーの資格・進路に関する意識調査（コロナ禍以前と以降の比較）

Consciousness research about Qualification and Career of University Student Trainer (Comparison before and after Corona)

体育学部健康科学科
河野　儀久
KAWANO, Yoshihisa
Department of Health Science
Faculty of Physical Education

要旨：本学の学生トレーナーの資格・進路に関する意識とコロナ禍前後の意識の変化を調査することを目的として，本学学生トレーナー54名にアンケート調査を行った。その結果，本学で取得したい資格は，柔道整復師（92％），第１希望とする卒業後の進路は，接骨院・整骨院（38％），起業・開業の希望は，起業・開業は希望しない（29％），トレーナーとして重要と思われる資質は，コミュニケーション能力（58％），トレーナーとしての能力を磨くために努力していることは，現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている（48％）がそれぞれ最も多い回答であった。また94％の学生が，高校時代に運動部に所属しており，95％の学生が，自身のスポーツ外傷・障害経験を有していた。コロナ禍以前と以降の意識の変化では，テキストマイニングの分析から，抽出語の頻度の上位は，活動（23），トレーナー（16），出来る（８）などであり，中心性の高い形態素は，「トレーナー」「活動」であり，結びつきの強い形態素は【「参加」「オンライン」「セミナー」】などであった。階層的クラスター分析では，【「リスク」「短い」「期間」「必要」「知識」「学ぶ」】などの結びつきが強く，対応分析では，原点（０，０）から離れたところに，【トレーニング】【クラブ】【トップガン】【人】がプロットされた。

キーワード：大学生，トレーナー，資格，進路，意識調査，テキストマイニング

Ⅰ．はじめに

競技者が怪我をした後，元の競技により早く安全に復帰させることを目的としたリハビリテーションの必要性がスポーツ界で認識されてきている。この競技復帰を目的として行うリハビリテーションは，日常生活に復帰させることを目的としたメディカルリハビリテーションと対比してアスレティックリハビリテーション（以下，アスリハ）と呼ばれている。つまり，競技復帰を可能にするために様々な身体機能を獲得させることがアスリハの最終ゴールとなる。

近年では，安全に効率よくアスリハを遂行して選手の競技復帰を目指すために，アスリハに携わる医師，理学療法士，アスレティックトレーナー（以下，AT）など様々なスタッフが関わり，それぞれの専門性を活かしながら選手の競技復帰に向けたアプローチが行われている。しかし，専門スタッフの役割や立場，あるいはそれぞれが教育を受けてきた環境などが異なるため，必ずしもそれぞれの専門スタッフが競技復帰やアスリハの進行について共通認識を持っているとは限らないといわれている[1)]。

したがって，AT養成に携わる教育機関の使命として，トレーナーとしての専門教育はもちろん，それぞれの専門スタッフの業務範囲の理解と，組織の中で共通認識を持って業務を遂行していく力を養成していかなければならない。

本学は，日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（以下，JSPO-AT）養成校として認定を受けており，JSPOの基準に準じたカリキュラムで教育を行っている。そして，National Strength & Conditioning Association（以下，NSCA）Certified Strength & Conditioning Specialist（以下，CSCS）および全国体育スポーツ系大学協議会スポーツトレーナー（以下，JPSU-ST）認定校となっており，NSCA

およびJPSUの基準に準じたカリキュラムで教育を行っている。また本学では，IPU Strength coach & Athletic trainer Team（以下，SAT）という学生トレーナーチームを活用し，課外活動において実践的なトレーナー教育にも取り組んでいる。また本学では，体育会においてトレーナー活動をする学生は，必ずSATに所属しなければならないというルールを設けており，学生トレーナーの実技・実践能力を客観的に評価し，ランク付けする仕組みを設けている。

廣瀬（2013）は，本学における健康科学科（柔道整復師養成課程）の学生を対象とした意識調査を行っており[2)]，全学生トレーナーを対象とした研究は河野（2019）が行っている[3)]。

2020年１月以降は，新型コロナウィルス感染症の蔓延により，授業はオンラインとなる他，体育会活動の練習も休止，練習は再開されても対外試合ができないなど，様々な制限がかかってきた。そのような状況の中，学生トレーナー教育を行う立場として，学生トレーナーの活動規範・ルール等の設定をどのようにして活動させるか，大変苦慮した。

そこで本研究では，大学生トレーナーが，自らが目指す資格と将来の目標に対して，どのような意識を持っているかを調査すると共に，新型コロナウィルス蔓延後，学生トレーナーの意識にどのような変化が起きたかを明らかにし，今後の学生トレーナー教育に役立てるための基礎資料を収集することを目的として調査を行った。

Ⅱ．方法

１．対象者

2020年度のSAT54名（１年生27名，２年生19名，３年生８名）を対象にGoogle Formsを用いてアンケート調査を行った。アンケート調査は2020年９月18日に実施し，アンケート結果は教育・研究目的以外には使用せず，回答は任意であること，個人は特定されないことを調査対象者に説明した。

尚，４年生においては既に引退により実質的な活動をしていないため，本対象から除外した。

２．アンケート項目

１）学生基本情報

①学科，学年，性別，出身高校の所在地

②高校時代に運動部に所属していたか

③高校時代に所属していたチームにトレーナーはいたか

④自身のスポーツ外傷・障害経験の有無

⑤現在のトレーナー活動状況

⑥体育会所属チーム

⑦アルバイトの状況

設問⑤および⑦は選択形式とした（表１参照）。

２）資格・進路に関する意識

①本学で取得したい資格

②卒業後の進路希望

③起業，開業の希望

④トレーナーとして重要と思われる資質

⑤トレーナーとしての能力を磨くために努力していること

いずれの設問も選択形式とした（表２参照）。

３）コロナ禍以前と以降の意識の変化

（自由記述形式）

３．アンケートの回答

選択形式の設問については，回答数を各学年および合計人数当たりの相対値（％）で表した。

また，自由記述形式の設問３については，テキストマイニングにより分析を行った。抽出語の頻度（多く出現していた語の確認），共起ネットワーク分析（抽出語間の結びつきを探る），階層的クラスター分析（抽出語間の特徴をつかむ），対応分析（抽出語間の結びつきや，テキストの部分ごとの特徴を探る）を行った。分析にはKH Coder３を使用した。

尚，１年生はコロナ以前を経験していないので，この質問には回答させなかった。

Ⅲ．結果および考察

１．学生基本情報（表１）

①学科構成の平均はPH（健康科学科）89％，PP（体育学科）11％，性別は男子54％，女子が46％であった。出身高校の所在地については，１位：広島県（19％），２位：岡山県（15％），３位：兵庫県（15％），４～７位：香川，山口，岐阜，鹿児島県（６％）であった。SATの構成員の89％が健康科学科である理由として，本学に入学を希望する段階からトレーナー希望の学生が多いことが影響していると思われる。出身校の所在地が中国・四国地方に集中しているのは，実家に近い地域から大学を選んで

いる傾向があると思われる。

②高校時代に運動部に所属していた学生は100％，所属していなかった学生は０％であった。これは高校までの運動経験が，トレーナーを目指す動機となる可能性が高いことを示している。

③高校時代に所属していたチームにトレーナーがいたのは32％，いなかったのは68％であった。これは自身の部活動での外傷・障害の受傷経験を通して，トレーナーの必要性を認識するようになった可能性がある。また，身近にトレーナーがいなかったことにより不自由を感じたことがトレーナーを目指すきっかけになった可能性がある。あるいは身近にトレーナーがいたことにより，自身も同様の道を選択するきっかけになった可能性もある。

④スポーツでの外傷・障害経験が「ある」と回答したのが95％，「ない」と回答したのが５％であった。これは自身の外傷・障害経験がトレーナーを目指す動機となる可能性が高いことを示している。

⑤整骨院・接骨院への通院経験が「ある」と回答したのが92％，「ない」と回答したのが８％であった。これは自身の整骨院・接骨院への通院経験が柔道整復師およびトレーナーを目指す動機となる可能性が高いことを示している。

⑥体育会所属先は，１位：陸上競技部（19％），２位：サッカー部（14％），３位：ラグビー部（13％），４位：女子バレーボール部（６％），５位：男子バスケットボール部（５％）であった。

⑦アルバイトの状況を業種別でみると，１位：飲食店（35％），２位：フィットネスクラブ（４％），３位：接骨院（２％）であった。また「アルバイトをしていない」が21％であった。これは41％の学生が，何らかのアルバイトをしており，経済的な負担を軽減する必要性がある可能性を示している。

２．資格・進路に関する意識（表２）

①本学で取得したい資格については，１位：柔道整復師（92％），２位：JSPO-AT（54％），３位：障がい者スポーツ指導員（30％），４位：NSCA-CSCS（25％），５位：JPSU-ST（21％）であった。柔道整復師が１位になった理由として，学生基本情報①より，SATの構成の89％が健康科学科の学生であり，そのほとんどが柔道整復師取得を目指していることと関連している可能性がある。また，JSPO-ATが２位になった理由として，学生基本情報⑤および資格・進路に関する意識②からもわかるように，スポーツチームのATを目指すため，資格が必要であると認識している学生がいること，そのための実践経験を積むため体育会でのトレーナー活動を行っている学生がいることと関連している可能性がある。それ以外のNSCA-CSCS，障がい者スポーツ指導員，JPSU-STは本学が認定校となっていることと関連している可能性がある。

②第１希望とする卒業後の進路については，１位：接骨院・整骨院（38％），２位：スポーツチームのAT（35％），３位：病院（10％），４位：スポーツチームのS&C（７％），５位：一般企業（４％）であった。こちらも資格・進路に関する意識調査①からわかるように，SATの構成員は健康科学科の学生が多いため，89％の学生が柔道整復師免許取得を希望していることと関連している可能性がある。

③起業・開業の希望については，１位：接骨院・整骨院の開業を希望する（36％），２位：起業・開業は希望しない（29％），３位：整骨院とトレーニングジムを併設させた施設を開業する（26％）であった。29％の学生が将来開業を希望していないが，62％の学生は，何らかの形で開業または起業しようという意思があることを示している。

④トレーナーとして重要と思われる資質については，１位：コミュニケーション能力（58％），２位：状況判断能力（25％），３位：技術・実技実践能力（８％）であった。

⑤トレーナーとしての能力を磨くために努力していることについては，１位：「現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている」「インターネット」から情報を収集している（記事，画像，動画など）が同率（48％），３位：積極的に人とコミュニケーションを図っている（41％）であった。

④，⑤の結果から，トレーナーとして重要と思われる資質である「コミュニケーション能力」を磨くために「現場でのトレーナー活動」を重要視している傾向があることが示唆された。

３．コロナ禍以前と以降の意識の変化

２年生18名，３年生６名から自由記述による回答を得た。

抽出語の頻度（表３）：抽出語の頻度の上位は，活動（23），トレーナー（16），出来る（８），勉強（８），思う（６），コロナ（５），トレーニング（５），時間（５），状況（５），選手（５）などであった。

共起ネットワーク分析：中心性の高い形態素は，「ト

レーナー」「活動」であり，結びつきの強い形態素は【「参加」「オンライン」「セミナー」】【「必要」「期間」「感じる」「状況」「勉強」「SAT」】【「部活」「IPU」「実践」】【「環境」「正直」】【「クラブ」「トレーニング」】【「コミュニケーション」「難しい」】【「対策」「健康」「感染」】であった。

階層的クラスター分析：８つのクラスターに分類され，①【「リスク」「短い」「期間」「必要」「知識」「学ぶ」】②【「変化」「参加」「セミナー」「オンライン」「勉強」「SAT」「年」「仕方」「外部」「行く」「月」】③【「管理」「取り組む」「大変」「予防」「練習」「考える」「増える」】④【「自分」「行う」「部」「環境」「正直」】⑤【「部活」「実践」「IPU」「変わる」「無くなる」】⑥【「人」「クラブ」「トレーニング」「感染」「対策」「健康」「トップガン」「空く」「遠征」「試合」「思う」「トレーナー」「活動」「コロナ」「できる」】⑦【「機会」「現場」「選手」「時間」「減る」「出る」】⑧【「コミュニケーション」「難しい」「感じる」「状況」「話」「対面」「多い」】の結びつきが示された。

対応分析：原点（０，０）から離れたところに，【トレーニング】【クラブ】【トップガン】【人】がプロットされた。

抽出語の頻度および共起ネットワーク分析の結果から，コロナ禍により，トレーナー活動に対して大きな影響があったと考える学生が多かったことが示唆された。一方トレーナー活動が制限された反面，オンラインセミナーへの参加により，学ぶ機会が増えたことが示唆される。これは本学スポーツ科学センター主催のオンラインセミナーに，多くの本学学生トレーナーが参加していたことと結びつけることができる。また，トレーナー活動中の感染対策の大変さと，自身および選手の健康に対する不安が少なからずあったことが伺える。

階層的クラスター分析において分類された８つのクラスターをそれぞれ①リスク　②変化　③管理　④環境　⑤実践　⑥活動　⑦機会　⑧コミュニケーション　と名付けた。これらの事から，コロナ禍が，学生トレーナーにとって多岐にわたる影響があったと推察される。

Ⅳ．結論

本学の学生トレーナーの資格・進路に関する意識調査を行った結果，本学で取得したい資格は，柔道整復師（92％），第１希望とする卒業後の進路は，接骨院・整骨院（38％），起業・開業の希望は，接骨院・整骨院の開業を希望する（36％），トレーナーとして重要と思われる資質は，コミュニケーション能力（58％），トレーナーとしての能力を磨くために努力していることは，「現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている」および「インターネットから情報を収集している（記事，画像，動画など）」（48％）がそれぞれ最も多い回答であった。また，学生本人のスポーツ外傷・障害の受傷経験がトレーナーを志す動機となっている可能性があることが示唆された。

コロナ禍以前と以降の意識の変化としては，感染リスクが上昇し，生活やトレーニング環境の変化により実践的な活動機会が減少し，コミュニケーションに対する難しさ等に変化が生じたと感じている可能性があることが示唆された。

表１　学生基本情報

学年		1年 (N=27)	2年 (N=19)	3年 (N=8)	平均
学科	PH	89%	89%	88%	89%
	PP	11%	11%	13%	11%
	計	**100%**	**100%**	**100%**	**100%**
性別	男	48%	53%	63%	54%
	女	52%	47%	38%	46%
	計	100%	100%	100%	100%
出身高校の所在地	広島県	22%	21%	13%	19%
	岡山県	22%	11%	13%	15%
	兵庫県	4%	0%	25%	10%
	香川県	7%	11%	0%	6%
	山口県	0%	5%	13%	6%
	岐阜県	0%	5%	13%	6%
	鹿児島県	0%	5%	13%	6%
	愛媛県	4%	0%	13%	5%
	長崎県	15%	0%	0%	5%
	鳥取県	4%	11%	0%	5%
	熊本県	4%	11%	0%	5%
	大阪府	4%	5%	0%	3%
	島根県	0%	5%	0%	2%
	京都府	0%	5%	0%	2%
	徳島県	0%	5%	0%	2%
	佐賀県	4%	0%	0%	1%
	静岡県	4%	0%	0%	1%
	宮崎県	4%	0%	0%	1%
	三重県	4%	0%	0%	1%
	福岡県	0%	0%	0%	0%
	沖縄県	0%	0%	0%	0%
	茨城県	0%	0%	0%	0%
	奈良県	0%	0%	0%	0%
	計	100%	100%	100%	100%
高校時代に運動部に所属していましたか？	していた	100%	95%	88%	94%
	していない	0%	5%	13%	6%
	計	100%	100%	100%	100%
高校時代に所属していたチームにトレーナーはいたか？	いた	41%	32%	25%	32%
	いない	59%	68%	75%	68%
	計	100%	100%	100%	100%
スポーツでの外傷・障害経験	ある	89%	95%	100%	95%
	ない	11%	5%	0%	5%
	計	100%	100%	100%	100%
接骨院・整骨院への通院経験	ある	93%	84%	100%	92%
	ない	7%	16%	0%	8%
	計	100%	100%	100%	100%
現在の活動状況（複数回答可）	体育会でトレーナー活動	52%	79%	50%	60%
	選手もトレーナー活動も特にしていない	33%	21%	38%	31%
	学外でトレーナー活動（アルバイト含む）	4%	0%	0%	1%
	体育会で選手として活動	11%	0%	13%	8%
	体育会で選手兼トレーナーとして活動	0%	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%	0%
	計	100%	100%	100%	100%
体育会所属先	サッカー部	4%	26%	13%	14%
	陸上競技部	15%	16%	25%	19%
	ラグビー部	4%	11%	25%	13%
	女子硬式野球部	4%	5%	0%	3%
	女子バスケットボール部	4%	5%	0%	3%
	バレーボール部女子	7%	11%	0%	6%
	男子バスケットボール	4%	0%	13%	5%
	男子硬式野球部	4%	5%	0%	3%
	男子ハンドボール	0%	0%	0%	0%
	女子ハンドボール部	4%	0%	0%	1%
	女子剣道部	0%	5%	0%	2%
	計	48%	79%	75%	67%
アルバイトの状況（複数回答可）	飲食店でアルバイトをしている	19%	37%	50%	35%
	フィットネスクラブでアルバイトをしている	0%	11%	0%	4%
	接骨院・整骨院でアルバイトをしている,	0%	5%	0%	2%
	コンビニ	0%	0%	0%	0%
	ガソリンスタンド	0%	0%	0%	0%
	アルバイトをしていない	33%	5%	25%	21%
	計	52%	58%	75%	62%

表２　資格・進路に関する意識

		1年 (N=27)	2年 (N=19)	3年 (N=8)	平均
本学で取得したい資格（複数回答可）	柔道整復師	93%	95%	88%	92%
	JSPO-AT	67%	58%	38%	54%
	NSCA-CSCS	22%	16%	38%	25%
	NSCA-CPT	15%	11%	13%	13%
	障がい者スポーツ指導員	19%	21%	50%	30%
	JPSU-AT	11%	16%	38%	21%
	健康運動指導士	11%	0%	0%	4%
	体育教員免許	0%	0%	0%	0%
	小学校教員免許	0%	0%	0%	0%
	幼稚園教員免許	0%	0%	0%	0%
	未定	0%	0%	0%	0%
	その他	0%	16%	0%	5%
	計	237%	232%	263%	244%
卒業後の進路希望（第1希望）	接骨院・整骨院	33%	42%	38%	38%
	スポーツチームのAT	48%	32%	25%	35%
	一般企業	0%	0%	13%	4%
	スポーツチームのS＆C	11%	11%	0%	7%
	病院	0%	5%	25%	10%
	大学院進学	0%	5%	0%	2%
	スポーツ選手のパーソナルトレーナー	4%	5%	0%	3%
	専門学校進学（鍼灸その他）	0%	0%	0%	0%
	フィットネスクラブ・スポーツクラブのインストラクター	0%	0%	0%	0%
	介護施設	4%	0%	0%	1%
	一般人（健康体力づくり）のパーソナルトレーナー	0%	0%	0%	0%
	教員	0%	0%	0%	0%
	公務員（教員以外）	0%	0%	0%	0%
	その他	0%	0%	0%	0%
	計	100%	100%	100%	100%
将来的に起業または開業を希望しますか？（複数回答可）	起業・開業は希望しない	30%	32%	25%	29%
	接骨院・整骨院の開業を希望する	48%	47%	13%	36%
	整骨院とトレーニングジムを併設させた施設を開業する	15%	26%	38%	26%
	フリーランスのトレーナーを希望する	11%	37%	25%	24%
	トレーナー派遣企業の経営を希望する	7%	5%	13%	8%
	整体院の開業を希望する	0%	0%	0%	0%
	トレーニングジムの開業を希望する	0%	11%	13%	8%
	その他	7%	0%	13%	7%
	計	119%	158%	138%	138%
トレーナーに必要な資質として特に重要と思われるものは何ですか？	コミュニケーション能力	56%	68%	50%	58%
	技術・実技実践能力	19%	5%	0%	8%
	状況判断能力	22%	16%	38%	25%
	医学的な知識	4%	5%	13%	7%
	挨拶・礼儀	0%	5%	0%	2%
	その他	0%	0%	0%	0%
	体力	0%	0%	0%	0%
	統率力	0%	0%	0%	0%
	自身の健康管理能力	0%	0%	0%	0%
	計	100%	100%	100%	100%
トレーナーとしての能力を磨くために日頃どのような努力をしていますか？（複数回答可）	現場でのトレーナー活動やトレーニング指導をしている	41%	53%	50%	48%
	積極的に人とコミュニケーションを図っている	37%	37%	50%	41%
	インターネットから情報を収集している（記事、画像、動画など）	48%	58%	38%	48%
	テーピング、手技等の練習をしている	37%	42%	25%	35%
	セミナーや勉強会等に参加している	19%	58%	38%	38%
	スポーツや体力トレーニングをおこなっている	30%	21%	13%	21%
	専門書や論文を読んでいる	11%	26%	25%	21%
	アルバイトをしている（他業種）	26%	16%	38%	26%
	アルバイトをしている（医療、スポーツ、トレーナー関係）	0%	11%	0%	4%
	特に何もしていない	0%	5%	0%	2%
	計	248%	326%	275%	283%

表３　抽出語上位10語

抽出語	頻度
活動	23
トレーナー	16
出来る	8
勉強	8
思う	6
コロナ	5
トレーニング	5
時間	5
状況	5
選手	5

参考文献

１．笠原　政志・山本　利春（2012），競技復帰に関するスポーツドクターとアスレティックトレーナーの意識調査，国際武道大学紀要No.28, pp43-54.

２．廣瀬　文彦（2013），柔道整復師を養成する大学の学生の意識調査，環太平洋大学紀要No. 8，pp265-270.

３．河野　儀久・飯出　一秀（2019），大学生トレーナーの資格および進路に関する意識調査，環太平洋大学紀要No.16, pp223-228.